

1 秋冬ねぎ

病虫害名	発生時期	発生量	予報の根拠
さび病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。(/ ±) ・15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
べと病	—	やや少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
黒斑病・葉枯病	—	やや少	・巡回調査の結果、発病株率及び発病度は平年より低く、発生地点率は平年よりやや低かった。(/ -) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ネギアザミウマ	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かった。(/ +) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ネギハモグリバエ	—	平年並	・巡回調査の結果、被害株率、被害度及び発生地点率は平年並であった。(/ ±) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

2 作物共通害虫発生現況

病虫害名	発生時期	発生量	発生現況
オオタバコガ	—	—	・フェロモントラップによる誘殺数は、登米市は9月第1週、大崎市は9月第1～2週にかけてやや多く推移している。 ・石巻市では8月第3週からやや少なくな推移している。 ・角田市では8月第2週から誘殺数が増加しており、昨年度より早くなっている。(角田市は令和2年度から調査開始したため過去の平均値なし)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少くなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第8号の発行日は、10月15日(金)の予定です。

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:9月7～10日

天候予報:仙台管区气象台9月16日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発病度は平年より低く、発生地点率は平年よりやや低かった。
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かった。
- (2)少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、被害株率、被害度及び発生地点率は平年並であった。
- (2)少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
(参考: 農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.icpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・出荷時の品質低下を防ぐため、発病葉位と収穫時期を考慮した薬剤防除を行う。
- ・台風等の大雨により浸水・冠水しやすいほ場では、明きよを設置するなど、事前の排水対策を行なう。また、茎葉等に泥水などが付着した場合は、動噴等で洗い流した後、殺菌剤を散布する。
- ・ねぎの病害虫は、にんにく・たまねぎにも発生するので、近接するほ場でこれらの作物を栽培する場合は特に注意する。

(2) さび病, ベと病, 黒斑病・葉枯病

- ・すでに病斑が見られ、発生に好適な条件が続く場合は、7～10 日間隔で薬剤防除を実施する。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を行う。

(3) ネギアザミウマ, ネギハモグリバエ, ネギコガ

- ・ネギアザミウマは卵から成虫まで異なる生育ステージが混在するので、多発時には薬剤の散布間隔を短くするなどの対策を行う。
- ・ネギハモグリバエは収穫残さなどが次作の発生源となるので、ほ場に放置せず、ビニール袋で密封もしくは被覆するなど、適切に処理する。
- ・これら害虫は野外越冬が可能なので、多発したほ場では、翌年の防除対策を徹底する。
- ・昨年度、県内で従来 of ネギハモグリバエとは異なり、著しい食害痕を呈する別系統のネギハモグリバエの発生が確認されている。詳細については下記の特報を参照。

※令和2年度 特報第3号 「ネギハモグリバエ(別系統)の発生について」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/844860.pdf>

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

オオタバコガの発生現況と防除のポイント

フェロモントラップ設置:角田市, 名取市, 大崎市, 登米市, 石巻市

1 発生現況

- フェロモントラップによる誘殺数は、登米市は9月第1週、大崎市は9月第1～2週にかけてやや多く推移している(図1)。
- 石巻市では8月第3週からやや少なく推移している。
- 角田市では8月第2週から誘殺数が増加しており、昨年度より早くなっている。(角田市は令和2年度から調査開始したため過去の平均値なし)

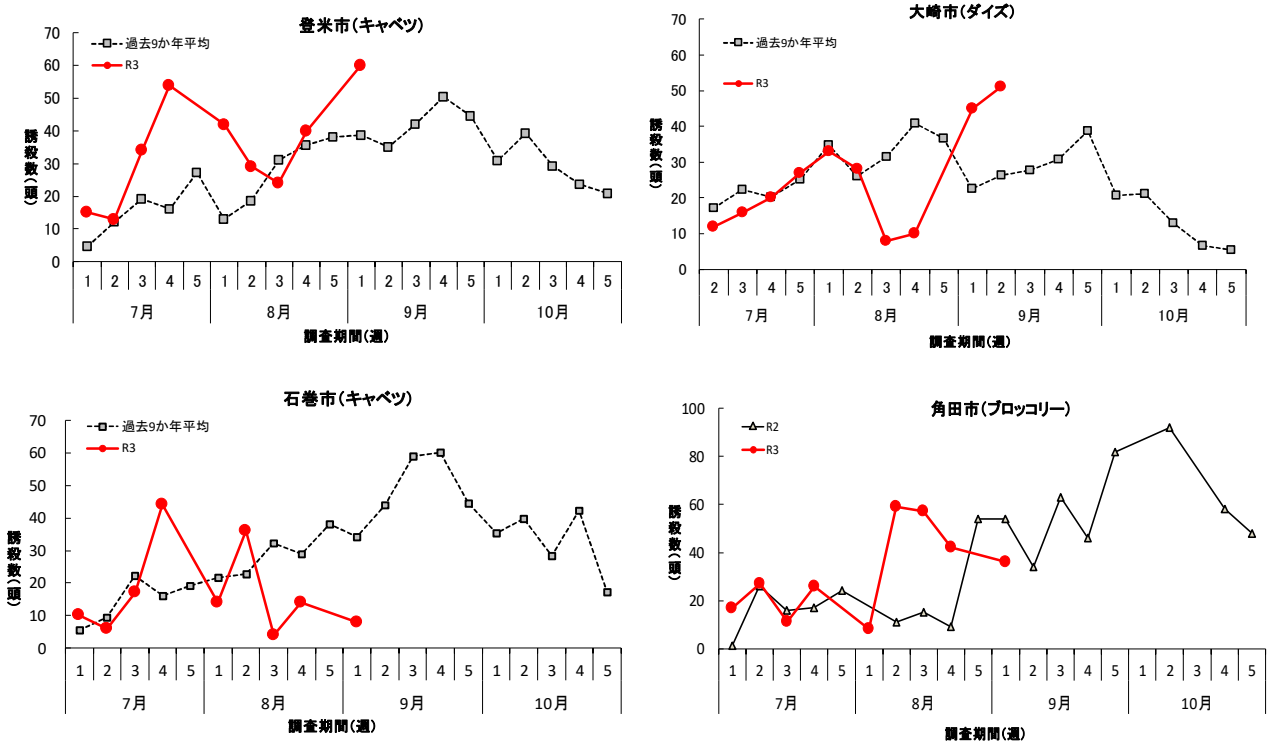


図1 オオタバコガの誘殺状況

その他の地点の結果は病害虫防除所のホームページを参照してください。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r03trap.html>

2 防除のポイント

- 薬剤防除は、高い防除効果が得られる中齢幼虫までに行う。
- 薬剤抵抗性の発達を防止するため、IRACコード*が同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの
- 生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると防除が困難になるため、ほ場をよく見回り見つけ次第捕殺する。

- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・被害部位の切除や摘心、摘蕾等で生じた残さには卵や幼虫がついている場合があるため、ほ場外で適切に処分する。
- ・施設栽培では、開口部に寒冷紗や防虫網(4mm 目合以下)を張って成虫の侵入を防止する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp